# Mナビ新聞 ―情報教育通信―

第 22 号

令和 5 年 12月25日
宮城県総合教育センター
情報教育班


## 教師の学びの姿 ～ 情報に自分からアクセスしましょう ～

「教師の学びの姿も、子供たちの学びの相似形」（令和4年12月19日中教審答申、『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について）と言われます。子供たちの学びとともに教師自身の学びを転換し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を通して、主体的・対話的で深い学びの実現を教師自身も進めていく必要があります。私たちが運営したICT活用に関する研修会での受講者の先生方の意見を聞くと、「どのように活用したらよいか分からない」「どんなアプリがあるのだろうか」「実践事例が少なすぎる」などの意見を聞くことがあります。学校現場の意見として大変貴重なものですが、これらの情報をどのようにして入手することができるかを考えてみましょう。今までであれば、「何かの研修会に参加して、そこに行けば情報を得られるだろう」と考えることが多かったかもしれません。しかし、今は、インターネット上に多くの情報が存在しています。「教科指導におけるICT活用」であれば、文部科学省の「StuDX Style」や各都道府県教育委員会のホームページなどを検索すると、実践事例がたくさんあります。また、端末やアプリケーションの使い方については、Apple や Google、Microsoft のサイトの中には大まかな活用の仕方まで説明をしているものもあります。さらに、本センターで YouTube 配信をしている「M ナビ TV 情報教育チャンネル」では、具体的な授業での活用事例を示しながらアプリケーションの使い方を説明しています。主体的に学び続ける教師の姿は、児童生徒にとって重要な「ロールモデル」とも言えます。環境の変化を前向きに受け止め、学び続け、子供一人一人の学びを最大限に引き出す役割を果たすことができるようにしたいものです。

## 参考資料　質問紙調査の留意点：根拠を明確にするために

証拠に基づく政策立案（EBPM）という言葉を聞いたことがありますか。質の高いエビデンス（根拠や証拠）に基づいて政策立案をしていくということです。高度な情報化が進むにつれて、データや根拠をもとに思考して判断する力の育成が教育現場でも求められています。「質の高いエビデンス」とはどのようなことでしょうか？例えば、学校では児童生徒・保護者を対象に質問紙調査（アンケート調査）をしますが質の高い調査をするためには、以下のようなことに留意することが必要です。

参考）総務省統計局ウェブページ

- 「一つの質問で複数のことを聞く質問」になっていないか。

例えば、「あなたは数学や理科の学習が好きですか？」といった質問です。数学について聞いているのか、理科について聞いているのかが不明確です。ダブルバーレル質問といい、正確に測定できない例です。

- 「誘導するような質問」になっていないか。

例えば、「国では〇〇が推進されていますが、家庭で〇〇を使って学習することは良いことだと思いますか？」といった質問です。これには、二つの問題点があります。一つ目は「国では・・・」の部分です。「国では・・」とか「専門家は・・・」という言葉は強い誘導を促すものです。二つ目は、「良いことだと思いますか」というところです。回答者は「良いことだと思う」と答える傾向があります。人は「いいえ」よりも「はい」と答える方が答えやすい傾向にあります。これをイエステンデンシーと言います。

総務省統計局のホームページ「なるほど統計学園」を参考にしてください。

| 実践紹介<br>第6回 | 「With タブレ」を使った授業実践<br>山元町立山下小学校　原　健一郎　先生 | | |
|---|---|---|---|
| 実施時期 | 11月～12月 | 教科・領域 | 体育（小学校3年） |
| 概要 | ・主な学習内容や児童の様子　〇With タブレの活用 | | |

## 単元名「とび箱運動」（7時間扱い）

【これまでの ICT 活用状況】

山元町内の小学校では、ロイロノートが導入され、教員や児童は、様々な場面で活用している。教員が課題や資料を配付し、児童が必要に応じて、それらを活用するという流れができてきた。3年生でも、繰り返し活用することで、一つ一つの指示を出さなくても、児童自らが考えながら活用することができるようになってきた。

iPad 内には With タブレサイトへのリンクが作成されているので、児童は、困ったときにいつでも見ることができる状態になっている。何度か見ているうちに、学習方法のいくつかを、自然と覚えた児童も見られた。

【本単元での ICT の活用】

① 導入

・開脚跳びを行うことを伝えた。今の自分の跳び方を知るために、動画撮影を行った。

② 課題の設定

・自分の跳び方を動画で確認し、改善点を考え、ロイロノートにまとめた。

〇改善点を見つけるために、「情報の収集」のページを参考にした。指導者が説明した正しく跳ぶためのポイントを聞くだけでなく、自ら本やインターネットを使って調べた。また、児童は消極的だったが、「意見を出し合う」ことも行うように声掛けした。

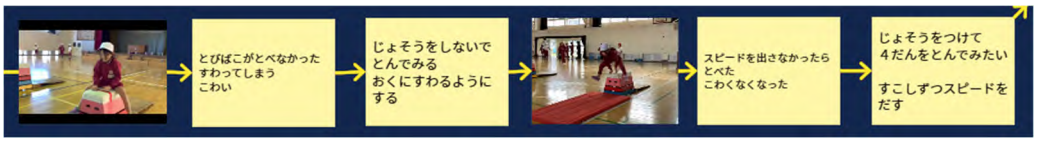
〇「きれいに跳びたい」「正しい跳び方をしたい」など、課題が明確になり学習意欲が増した。また、初めは互いに見せ合うことを恥ずかしがっていた自分の跳ぶ姿を友達に見せ、互いにアドバイスをする姿も見られるようになった。

③ 分析・改善

・児童それぞれが設定した課題を解決するため、助走のスピードや踏み切りの仕方、手の位置、着地の仕方などを動画で撮影しながら練習した。

④ まとめ・発表

・ロイロノートには、「動画→改善点→動画→改善点→動画」というように、シートを並べ、学習の流れが分かるようにした。このファイルは、授業のたびに上書きして提出し、最後に児童同士の成果発表と評価に活用した。児童は互いの成果を褒め合いながら発表を聞くことができた。




| | |
|---|---|
| 使用機材<br>ソフトウェア | 児童の端末…iPad、指導者の使用機器…iPad、電子黒板<br>アプリケーション…ロイロノート、NHK for School |
| 県内の先生方へ | 実技指導を行う際、指導前から「なんとなくできている」児童が、はっきりとしためあてがない中で、楽しく授業に参加し、なんとなく単元が終わってしまう、といったことはないでしょうか。本単元で With タブレを活用したのは、課題設定の場面だけでしたが、改善する方法を提示したことで、客観的に自分の姿を見つめ、目標を立てることができました。<br>With タブレに立ち寄り、自分にはない学び方や考え方を知り、新たな学習を進めるきっかけにしていただきたいと思います。 |

| | |
|---|---|
| 編集後記 | 今年度も残すところあと3か月ほどとなり、学校では今年度のまとめと来年度に向けた計画立案が進んでいる時期ではないでしょうか。今回は、客観的に見るという視点から「質問紙調査」についての記事を載せました。他の資料も参考にしながら、根拠を大事にした計画立案について考えて、次年度に生かしてみましょう。（第22号担当　遊佐） |